

ひまわり



菊川市消防団10周年!!

二〇〇五年（平成十七年）に旧菊川町と旧小笠町とが合併し、今年で菊川市制10周年になります。

消防団においても10年の節目の年を迎え、さらなる飛躍が期待されております。消防団は、「地域の防災リーダー」として「自らの地域は自ら守る!」という強い使命感のもと、昼夜を問わず活動しています。近年では全国各地で大規模な災害が発生しており、全国の消防団員の活動を目にする機会が増えています。地域防災力を強化するために常日頃から住民の声に耳を傾け、地域と密接な連携を図るとともに、消防団員一人ひとりが地域の安心安全のために菊川市民の期待に応えられるよう活動をしていきます。



11月24日にアエルで行なわれた市制10周年のイベントで、防火パレードを行ないました。

消防団の活躍

花火教室



市内の幼稚園・保育園の園児を対象に安全で楽しい花火の遊び方を指導しています。花火を通じて「火」の恐ろしさを伝えるとともに、楽しく綺麗な夏の思い出になるようにと、思いをこめて指導しています。

街頭広報

11月10日、秋の火災予防週間に伴い火災予防啓発の一環として街頭広報を行いました。消防本部予防課や消防署、一日消防署長らと合同で市内のスーパーへ出向き、多くのお客さんに火災予防を呼びかけました。



女性消防団研修会



全国活性化大会や県内の研修会を通じ、他市との交流・意見交換等も行なっています。研修では、救急や予防といった内容が主ですが、近年では災害時の支援活動や救護活動など、女性ならではの、きめ細かい活動を学んでいます。

高齢者防火訪問



一人暮らしの高齢者（80歳以上）のお宅を訪問し、防火指導を行いました。不安や心配に思っていることに耳をかたむけ、災害時の対策や火災予防等について指導しました。

救急講習

女性消防団員8名は、全員が応急手当普及員の資格を持ち、消防職員と一緒に消防団や市民の方々に心肺蘇生法やAEDの使用方を指導しています。



2004年7月1日よりAED（自動体外式除細動器）は医療関係者や救急救命士だけでなく、一般市民も使うことができるようになりました。近年ではAEDを使用した救命事例も多数あります。心肺蘇生法やAEDの使い方を習得することはとても大切なことです。目の前で人が倒れ、救急車が到着するまでの数分間、私たち一般市民が勇気を出して積極的に心肺蘇生法とAEDを使用することで、その人を救うことができるはずです。

菊川市消防署では、毎月第3土曜日に一般の方を公募しての普通救命講習を行なっています。皆さんも救急講習を受講してみてはいかがでしょうか。



ふれあいコーナー



夏休みや休日には様々なイベント会場でポンプ車の乗車体験などを行っています。実際に走行するポンプ車の乗車体験や、子ども用の防火衣を着用し記念撮影もできるこのコーナーは子どもや親子連れの来場者に大人気。これからも多くの方の体験をお待ちしています。遊びに来てね。



第1分団1部 竹中宏行

災害の現場に駆けつけたり、訓練に頑張ってお出掛けていく姿をいつも頼もしく見えています。これからもパパのことが大好きな娘のため、人のために頑張れる優しいお父さんでいてね！

たいへんなことも多いと思いますが、家族で応援しているよ。(朋子&ゆい より)

私の家族は消防団



第5分団 伊藤宵悟

消防団に入り、地域のためにさまざまな活動に取り組む夫の姿を子どもに見せたいと思います。これからも怪我に気をつけて目標に向かって頑張るカッコいい父親の姿を見せてほしいです。応援しています。「とーと、がんばれー！」

(千月・憲志 より)

消防団協力事業所 紹介

小笠運送株式会社

弊社は菊川市内でトラック輸送ならびに、倉庫・物流センター業務を営んでおります。地元のお客様を中心に、自動車部品等の工業製品の輸送と保管、また冷凍車を使用して食品(食肉)輸送を主な業務としております。現在、134名の正社員さんとパート社員さんの活躍によって運営しておりますが、そのなかでも菊川市消防団に所属する6名の社員さんは、特に優秀な若者で、職場でも連日大活躍しております。

左から中野博人君(6分団)、赤堀弘治君(8分団2部)、佐藤祐輔君(5分団)、松下文孝君(7分団)、鈴木愛斗君(5分団)と女性消防団員の河原崎のぞみさんです。

今後とも、菊川市消防団とともに、地元のお客様のお役に立てるよう精進してまいります。



消防団協力事業所制度とは

消防団員は、普段はそれぞれ仕事をもちながら、地域の安全・安心のために活動しています。現在の消防団員は大多数がサラリーマンです。このような状況で消防団に入団しやすく、団員として活動できる環境の整備が求められています。そのため、菊川市では平成20年度から「消防団協力事業所表示制度」を設けました。消防団活動に協力的な事業所などに消防団協力事業所表示証を交付することで、社会貢献として広く認められ信頼性の向上・イメージアップと同時に、地域防災体制をより充実することを目的としたものです。



消防団協力
事業所マーク

市内の協力事業所

- ・遠州夢咲農業協同組合本店・和興産業株式会社・株式会社浜崎商店・有限会社赤堀製茶工場
- ・株式会社ミクニ菊川事業所・株式会社産栄工業・株式会社小原組・サンペイントOS
- ・小笠運送株式会社・株式会社沖開発

市査閲大会



● ラッパ隊 ●

操法訓練の成果を競う「菊川市消防団査閲大会」が7月に開催されました。この大会は、技術の向上と団員の志気高揚を図り、団員間の団結・連携を目的に行なわれています。出場した団員は、日ごろの訓練の成果を発揮し、指揮者の号令のもと、規律正しく安全・確実・迅速な訓練を披露しました。

出初め式や査閲大会などで演奏されるラッパ隊の勇壮な音楽。この演奏を聞くと消防団の志気と規律が、よりいっそう高まります。

結果 団体 個人

訓練礼式の部

優勝 第7分団
準優勝 第6分団
第3位 第5分団
指揮者 恩田豊文（7分団）

ポンプ車操法の部

優勝	第8分団1部	指揮者	笹島 常（6分団）
準優勝	第7分団		紅林芳明（7分団）
第3位	第3分団	1番員	水野智喜（8分団2部）
		2番員	橋本啓吾（5分団）
		3番員	山本一匡（8分団1部）
		4番員	福田和之（8分団2部）

小型ポンプ操法の部

優勝	第7分団
準優勝	第1分団
第3位	第8分団
指揮者	龍口弥祥（1分団）
1番員	杉本 隼（1分団）
2番員	国京達也（2分団）
	笹瀬太郎（7分団）
3番員	長尾知哉（7分団）

去る10月6日（月）台風18号が静岡県に接近しました。菊川市においても大雨等により道路の冠水や住宅の床下浸水など多くの被害が確認されました。このような状況下においても地域の安全を自分たちで守るため、多くの消防団員が全力を尽くしました。また、10月13日（月）に接近した台風19号においても消防団員は管轄地域の巡視を行なうなど、水害対応のみならず、事前対策にも気を配りました。

災害の脅威



団員はこのような災害時に対応できるよう常日頃から実災害対応訓練を実施しています。

● 水防訓練 ●



毎年6月に水防訓練を実施しています。水防団員を兼務する団員は、台風やゲリラ豪雨といった災害時の河川の氾濫に備え、ロープ結索訓練や土嚢づくりなどの訓練を行なっています。

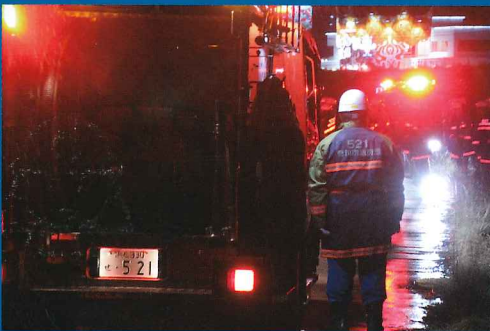
消防署との合同訓練

消防職員と消防団員は互いに必要不可欠な存在であり消防署と消防団の連携強化を図るとともに、団員の防災意識、技術向上を目的として消防署敷地内で合同訓練が行なわれました。分団ごとに抱える課題はさまざまであり、各分団にあった訓練を消防職員が計画し、消防職員の指導のもと災害現場での安全管理、基礎知識、初動態勢や火災防ぎよ訓練などを行ない、技術の向上を図りました。



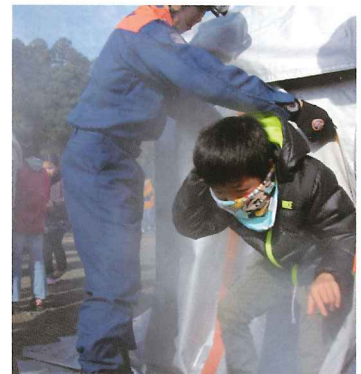
非常召集訓練

11月30日(日)夜間に非常召集訓練が実施されました。車両16台、消防団長以下126名が参集。この訓練は、火災シーズンを迎えるにあたり実際に近火サイレン(同報無線)が吹鳴され、団員は指定された場所へ集結。参集訓練、緊急出動訓練、想定訓練といった消防活動の根源となる初動態勢の早期確立を図ることを目的として実施されました。



■ 地域防災訓練 ■

毎年12月第1日曜日は地域防災訓練の日。自治会や関係機関と協力し“みんなで地域の安全を守る！”をモットーに、炊き出しや消火訓練、救急講習、煙体験、資機材点検を行ないました。



消防団の主な年間行事

- 4月 入退団式
- 6月 水防訓練
- 6～7月 花火教室
- 7月 査閲大会
- 7～8月 普通救命講習
- 10～11月 高齢者防火訪問
- 10～12月 消防団消防署合同訓練
- 12月 地域防災訓練
- 12～1月 夜間特別警戒(夜警)
- 1月 消防出初式



新入団員の紹介

平成26年度は、51名の新しい団員が入団しました。そのなかから8名の団員を紹介します。

第1分団2部



とづかなおゆき
戸塚尚幸
島川 在住

私が消防団に入団して感じたことは、消防団活動を通して多くの人と知り合い、年齢による縦の繋がりの和が大きく広がってよかったと思います。また、地域住民を守る使命感を団員全員が自覚していて、日ごろの訓練や活動でみんなが一致団結していて素晴らしいと思いました。

第2分団2部



すぎたなおや
杉田尚也
神尾 在住

消防団に入団したことで、普段接することがなかった先輩や地域の方々と一緒に活動することができ、地域や市民の温かさを実感することができました。

第3分団1部



いしかわゆうだい
石川雄大
三軒家 在住

消防団に入団して、地域の人々や、諸先輩方との交流が多くなったことが一番の経験になっています。早く一人前の団員になりたいと思います。

第4分団1部



おおいしなおき
大石直樹
沢水加 在住

7月の大会前などはたいへんですが、地元の先輩方との繋がりも増え、人脈が広がります。多くの人と交流があることで地域への愛着もよりわくと思います。

第5分団



おおいしたかお
大石高央
池村 在住

消防団に入団して、右も左もわからないなか、操法や規律など分かりやすく、時には厳しく教えていただきました。団員の先輩方にも恵まれ、よかったと思います。今後、行事に多く参加させていただくことができると思いますので、地域の皆様や団員と協力し、役に立てるように勉強していきたいと思っています。

第8分団1部



やまもとかずまさ
山本一匡
川中 在住

私は今年、消防団に入団しました。高校を卒業し、そのまま地元を離れて生活をしてきたため、地元の先輩や同級生との関わりが疎遠になっていました。昨年帰郷した際、野球を通してお世話になっている先輩から誘いがあり、詳細を聞いて入団にいたりました。実際関わったことのない先輩方が多く、不安な気持ちしかなかった春先でした。しかし消防の訓練や集まりに参加すると先輩の方々が優しく迎え入れてくださいました。おかげで、充実した訓練ができ査閲大会でも望んだ結果を出すことができました。それも訓練等で熱く、厳しく、ときには優しい先輩方の支えがあったからだと思います。地元を一回離れた私にとって、消防団はとても大切なコミュニティになりました。来年には後輩たちが入団してくると思います。私がしてもらったことを後輩たちにも伝えて今後には繋げていきたいと思っています。

第6分団



とづかもとのり
戸塚基徳
志茂組 在住

消防団には、今年度地元の先輩に誘われて入団しました。入団には正直消極的でしたが、この一年で先輩や後輩、地元の方々など多くの知り合いができ、自分にとってプラスになることがたくさんありました。

第7分団



ながおともや
長尾知哉
南町 在住

菊川市消防団第7分団団員の長尾知哉です。消防団に入り、消火活動や救命救護などの知識を得ることができました。これからも地域のために活動できるように頑張りたいと思います！

がんばります。
よろしく
お願いします。



消防団員

募集

一人ひとりの力が地域を災害から守る！

菊川市では、男性消防団員・女性消防団員を募集しています。

近年、全国的に消防団員の担い手が減少しており、菊川市においても団員確保が難しく深刻な問題を目のあたりにしています。消防団は地域の防災リーダーであり、防火・防災の要として重要な役割を担っています。また、応急手当の普及や予防啓発を図るため、女性消防団員も地域のために活躍しています。市民の安心安全のため、ぜひあなたの力を貸してください。

火災や水害の予防啓発を目的として、女性消防団員8名により消防団広報誌を編集しました。菊川市消防団の活動を市民の皆さんに広くお伝えするとともに、予防啓発に繋がれば幸いです。今後も市民の期待に応えられるよう活動していきます。